

令和3年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	6	学校名	浜松聴覚特別支援学校	記載者	教頭 寺田有美子
------	---	-----	------------	-----	----------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	安心・安全な学校生活を送るための環境及び体制づくりの推進	緊急時に対応できる教職員の対応力の向上と学校組織の構築	A	A	コロナ禍でも感染症予防対策をしっかりと図りながら教育活動を継続できたのは、児童生徒にとって意味がある。
		災害発生時に自らの命を守ることができる児童生徒の育成	A	A	
		自他を大切にし、相手を思いやる気持ちの育成	A	A	
		学校経営予算の計画的効果的な運用	A	A	
イ	交通事故、不祥事根絶に向けた校内体制づくり	交通事故・不祥事根絶に向けた職員の意識向上	A	A	セルフチェックを行うことが大切。 忘れてしまうこともあるので、啓発を意識して継続して行ってほしい。

② 聴覚障害教育の専門性を発揮し言葉やコミュニケーションを大切にした教育を実践する。

ア	「きこえにくさ」とそれに伴う特性の理解と、対応力、コミュニケーション力の向上	きこえにくさに配慮した指導力の向上	A	A	児童生徒が表情豊かに表現している。
		学習会で学んだ知識を活用した指導力の向上	A	A	
		「今日の手話」・手話学習会を通じた手話力向上	A	A	
イ	校内における専門性の向上と継承	教職員一人ひとりのキャリアに応じた専門性の向上と継承	B	B	コミュニケーション力の向上が聾学校の魅力だと感じるので、専門性の向上と継承は大切にしてほしい。

③ 言語拡充と基礎学力の向上を図り、生活力を豊かにする授業を実施する。（重複障害を含めた）

様式第5号

ア		分かりやすい授業を目指した授業力の向上	A	A	
		保護者が子どもによりよくかかわる力の向上 (乳幼児教室)	A	A	
		言語の基礎となるあそびの充実 (幼稚園)	A	A	自由に遊ぶ中でいろいろなことを学ぶことができる。
		基礎学力の定着を支える言語拡充 (小学部)	A	A	
		日々の授業実践における生徒の基礎基本の定着と深い学びが展開できる授業力の向上 (中学部)	B	B	
イ	読書活動を通じた言語力向上の基礎づくり	読書活動の推進による生活言語の拡充とコミュニケーション能力の向上	A	A	
ウ	多様化する児童生徒の実態を的確に捉えた、学習指導や支援の充実と教育課程の見直し	個別の指導計画を活用した指導の充実	A	A	
		情報機器を有効活用した指導の充実	B	B	

④ 一人ひとりの夢の実現と社会自立を目指し、キャリア教育を推進する。

ア	寄宿舎生活を通じて行う、個に応じた自立支援	日常生活の自立に向けた児童生徒個々の生活力の向上 (寄宿舎)	B	B	
イ	自己実現に向けた自立活動と進路指導の実践	保護者と共に行う自立活動の充実 (幼稚園)	A	A	
		自己の将来や夢につながる指導の系統性と内容の充実 (小学部)	A	A	

様式第5号

		・日々の生活や自立活動で、障害認識を深め、適切な進路を考え選ぶ力の向上 (中学部)	A	A	企業として進路に関わることで貢献できることがあるか考えたい。
		日常生活で補聴援助システムを効果的に活用できる技能の向上 (通級指導)	A	A	
		教職員一人ひとりの進路指導力の向上	B	B	社会に出るまでに身に付けたい力を幼から段階的、系統的な指導によって定着していけるといい。

⑤ 自己理解を深め、地域社会の中で生きる力を養うための共生教育を実践する。

ア	地域で生きるための力を養う共生教育の実践	校外保育の充実 (幼稚園)	A	A	今後も、学校周辺の豊かな環境を上手に利用していけるといい。
		個々の自己理解力、対応力の向上 (小学部)	A	A	
		地域における行事や同年代との関りを主体的に深めることができる生徒の育成。 (中学部)	A	A	

⑥ 聴覚障害に関する地域のセンター的機能と校内支援の充実を推進する。

ア	本校教育活動の積極的な発信	本校に通う幼児児童生徒の実態や教育活動についての理解啓発	A	A	(コロナ禍の社会になり)近年の関わりが少なくなっているが、地元地域への情報発信を行えるといい。
イ	地域におけるセンター的役割と校内支援体制の充実	校内及び地域における教育相談力・支援力の向上	A	A	